



株主のみなさまへ

2011

2月期 中間報告書

2010.2.21~2010.8.20



イオンモール株式会社

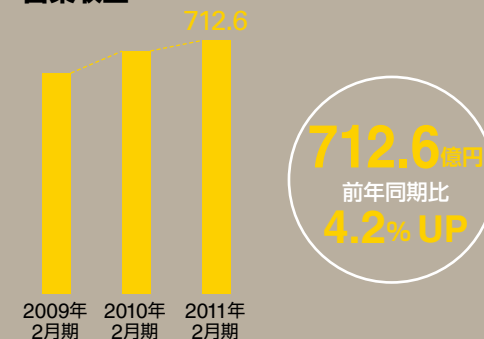
証券コード: 8905



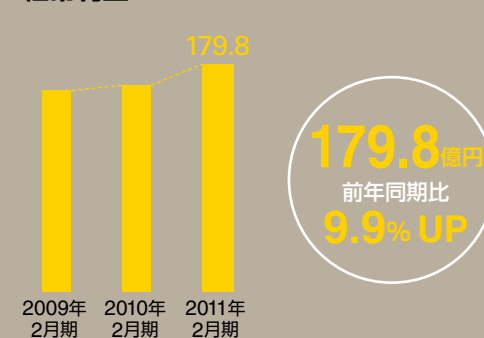
上期連結決算ハイライト

(2月21日～8月20日)

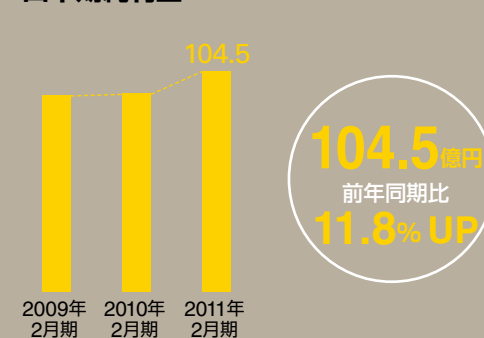
営業収益



経常利益



四半期純利益



ごあいさつ

“新たな飛躍”に向けて

上期連結決算のご報告

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、2011年2月期(当期)上期は、左記の連結決算ハイライトに示すとおり、営業収益・経常利益・四半期純利益ともに前年同期を上回り、上期としては過去最高の業績を残すことができました。

消費マインドも冷えこんだ厳しい経済情勢のもと、当社は6つの既存ショッピングセンター(SC)のリニューアルによる活性化を進めた結果、既存49SCは、専門店売上とともに来店客数・入庫台数で前期を上回り、また、客単価も前期並に回復しました。さらに、テナントの空床率も大幅に改善しています。加えて当上期にオープンした新規3SCも好調に推移しています。コスト構造改革の取り組みにも注力した結果、増収増益を達成することができました。これも株主の皆さまのご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

SC専業ディベロッパーとしての誇り

当社は、日本で唯一のSC専業ディベロッパーです。経営理念に掲げるSCを拠点とした「輝きのあるまちづくり」の実現をめざし、地域に根ざしたSCづくりを推進しています。

SCの多くは、地域から誘致を受け出店してきたものです。都市計画におけるSCの機能や役割を提案し、地域社会と一体となった開発・運営を行っています。

このような当社のSC事業は、地元雇用の創出や自治体の税収増加、さらには地元商工者の皆さまの事業機会を具現化する場として地域経済の発展に寄与しています。今日では、日本を代表するディベロッパーとしての基盤を築き、SCを核とする地域開発などの要請もいただくなど、当社の事業は、社会的に存在意義の高いビジネスであると確信しており、今後も、SCづくりを通して、地域の発展に貢献し続けてまいります。

このことが当社の一層の成長と発展につながると認識しており、今後も、安定的に新規SCの出店を推し進め、既存SCでは活性化のスピードを速めてまいります。さらには、中国を中心とした海外事業の展開、プロパティ・マネジメント※(PM)事業によるSC事業の拠点拡大など、新規収益源の確立にも注力し、強固な事業基盤の構築に取り組んでまいります。

新たな飛躍に向けた変革の年

当社では、当期を“新たな飛躍に向けた変革の年”と位置付け、中期経営計画をスタートさせました。

※プロパティ・マネジメント(PM):商業施設において、土地・建物を所有せず、不動産オーナーに代わってSCのコンセプト企画・専門店誘致、オープン後の運営などを行い、役務の対価として収益を得ることができる事業。



(詳細につきましては、当報告書13頁をご覧ください)
通期では、連結営業収益1,470億円(前期比5.5%増)、経常利益380億円(同5.0%増)の達成を目指しています。

配当金については、1株当たり中間配当金を10円とさせていただいたほか、年間の1株当たり配当金は、期末配当金10円と合わせて20円を予定しています。株主の皆さまには、こうした当社の考え・施策をご理解いただき、何卒一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年10月

代表取締役社長

村エ教行
Noriyuki Murakami

イオンモールのビジネスモデル

当社は、1970年にSC開発に着手しました。その後、わが国は40年にわたり、モータリゼーションの進展やライフスタイルの多様化など社会構造が大きく変化してまいりました。そのような中、当社は、

SCコンセプト

「地域一番の魅力をもつSCづくり」を進め、集客力を高めることが、当社の成長にとって重要な要素となります。

このため、新規SCの開設はもちろんのこと、既存SCの計画的な増床やテナントの入替えといった活性化を定期的に実施し、常にお客さまに選んでいただけるSCづくりに取り組んでいます。

そのためには、多くのお客さまにとって当社のSCが、より魅力的な存在であり続けることが重要と考えています。すなわち「ショッピング」「エンターテインメント」「コミュニティ」「エコロジー」の4つの機能を満たすこと、すなわち多様なお客さまのご要望にお応えできる「ワンストップソリューション」を提供できるこそが、当社の強みです。

地域の行政や住民の皆さまなど、地域社会と一体となってこのようなSCの開発を進めています。

それぞれの時代にマッチした多様なSCづくりに取り組み、確実な歩みを続けています。今後も、お客さまの一層のご支持をいただき、地域と共生するSCづくりに取り組んでまいります。

SC開発・リーシング・運営・管理を一貫して実施

SCの開発にあたっては、商圈・地域のマーケット調査を実施し、地域にふさわしいSCコンセプトを企画します。GMS※と大型専門店で専門店モールで結ぶ「2核1モール」型を基盤にして、地域特性やお客さまのライフスタイルに対応したテナント誘致を実現し、お客さまの満足度を高めるSCづくりに取り組んでいます。集客力の向上には、バリエーション豊かな専門店モールの実現が不可欠であり、テナントから出店したいと望まれるSCでなくてはなりません。

当社の収益は、テナントからの賃貸収入で構成されており、テナントの売上高の増加に応じて収入も増加します。従って、テナントへの営業サポートや、ITを活用した売上収集・分析など、積極的なテナントサポートにも取り組んでいます。

当社は日々、お客さまやテナントの目線で運営・管理を実施し、SCの価値向上を推し進めています。

※GMS：ゼネラル・マーチャンダイズ・ストアの略で、衣食住全般にわたり各種商品を幅広く品揃えした総合スーパー。

■イオンモールが重視する4つの機能

ショッピング機能

GMSを核とし、最新のファッションから生活雑貨など、緻密に計算されたテナントミックスにより、お客さまのさまざまなライフスタイルにお応えしています。

エンターテインメント機能

シネマコンプレックスやアミューズメント施設を備え、ショッピングのみならずお食事、イベントなど、「SCで過ごす時を楽しむ」という時間消費型のサービスを提供しています。



ワンストップ
ソリューション

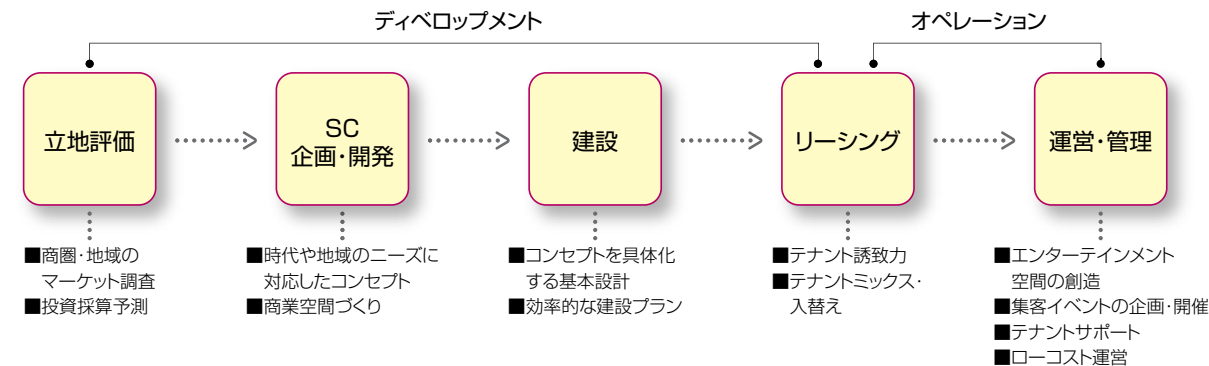
コミュニティ機能

銀行・郵便局や医療機関、行政サービスの出張所など、公共性の高い施設を設置。SC内の多目的ホールは、地元のイベント、成人式や確定申告・期日前投票の会場など行政面でも活用いただいています。

エコロジー機能

環境と共生するSCづくりを推し進め、太陽光発電や大規模氷蓄熱空調システムを導入するとともに、地域の生態系を守るため排出されるすべての廃棄物をリサイクルする「ゼロ・エミッションSC」への取り組みを進めています。

■イオンモールのSC開発の流れ



イオンモールKYOTO 2010年6月4日オープン 国際観光都市「京都」にふさわしい、新たなランドマーク誕生



敷地面積：約30,100㎡
建物延床面積：約148,300㎡
総賃貸面積：約51,000㎡

専門店数：約130店舗
駐車台数：約1,125台

京都の玄関口・京都駅前に立地

イオンモールKYOTOは、JR京都駅八条口から徒歩5分という、大都市のターミナル駅前に立地するSCとして6月4日にオープンしました。当SCは、PM事業として、清水建設株式会社より2009年11月にPM契約を受託し、テナント誘致からオープン後の運営・管理まで当社が行っています。

「都市型×郊外型SC」として生活トレンドを提案

当SCは、普段の生活を彩るちょっとした“こだわり”の提供をコンセプトに、「Only One Selection」というメッセージを掲げ、京都では、ここでしか買えない品揃えを誇る約130の専門店で構成されています。来店するたびに新しい感動・楽しさ・情報を提供し、エンターテインメント性に溢れる地域初のワンストップソリューション型SCを目指しています。

Sakura館、Kaede館からなる個性豊かな専門店街は、互いにブリッジ（Miyako橋）でつながれ、各フロアに多彩なテーマを持った魅力いっぱいの店舗を展開。「都市型×郊外型SC」として生活トレンドの提案を行うほか、「美しく」「楽しく」「親切的」SCとして誕生しました。ショッピングだけでなく、地元の皆さまをはじめ、国内外からの観光客にも楽しく快適な時間を過ごせる「ちょっと上」の新しい価値感を提供します。

56の京都府初出店と17の地元企業のコラボを実現

スーパーマーケット「KOHYO」やGAPの新業態「the gap generation」、京都最大級の12スクリーンを完備したシネマコンプレックス「T・ジョイ」などの京都府初出店を実現し、地元・京都の老舗・有名店にも出店いただいています。

当SCは、大都市駅前という好立地により周辺地域のお客さまだけでなく、京都駅を利用される広範囲のお客さまにもご利用いただいています。



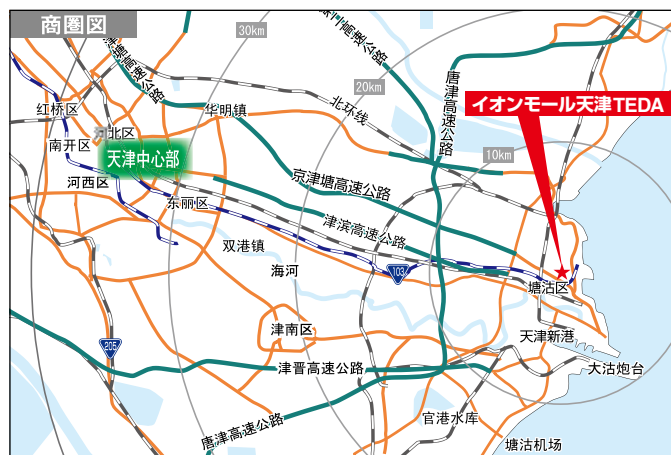
シネマコンプレックス「T・ジョイ」



スーパーマーケット「KOHYO」

イオンモール天津TEDA 2010年9月21日オープン

中国2店目の 出店で、海外戦略の基盤を一層強化



発展が進む天津経済技術開発区 (TEDA)

敷地面積：約98,000㎡
建物延床面積：約110,000㎡
商業施設面積：約75,000㎡

専門店舗数：約130店舗
駐車台数：約2,500台

中国事業の発展をにらんで

当社は、中国2号店となるイオンモール天津TEDAを9月21日にオープンしました。当SCは天津市中心部から57kmの中国2大開発地区である天津経済技術開発区(通称：TEDA)に位置しています。

同エリアは国際コンベンションセンター・ホテル・マンション・サッカースタジアムなどとともに、高層住宅開発も進められており、今後大きな発展が見込まれる総合開発エリアです。天津市中心市街地から同エリアへの高速道路や幹線道路も整備され、当SCは地下鉄駅にも隣接し、自動車・公共交通機関の双方でアクセスに恵まれています。

天津地区初の本格的2核1モール型SC

天津市では都心立地の商業施設が中心であり、郊外立地のSCはまだ普及していません。しかし、モータリゼーションが急速な高まりを見せている中、広大な敷地に大規模な無料駐車場を備えた郊外立地のモール型SCは、今後ますます大きな成長が見込まれます。

当SCは、GMS「ジャスコ」を核店舗に、もう一方の核店舗として大型家電店や家具店、シネマを配置し、専門店ゾーンでつなぐ2層の本格的な2核1モール型SCです。日本のSC同様にファッション、雑貨、飲食、サービス、アミューズメントなどのバラエティに富んだ130の専門店で構成されています。

当社は中国1号店であるイオン北京国際商城ショッピングセンターで蓄積したノウハウを最大限に活用し、地域の皆さまに快適なショッピング環境をご提供するとともに、新たなコミュニティ空間として生活に潤いを与える施設を創出します。

オープン後、順調に推移

9月21日のオープン後、多くのお客さまにご来店いただいております。週末には駐車場が満車になるなど、にぎわいをみせています。

イオン北京国際商城ショッピングセンター

2008年11月のグランドオープン後、2009年9月にシネマコンプレックスを導入。専門店の売上は2桁増になるなど、好調に推移しています。また、2010年末には地下鉄が開通し、当SCに隣接する駅が利用可能となり、さらなる成長が期待できます。



シネマコンプレックス

多様な立地でお客さまのニーズに対応した3SCをオープン

当上期は、3月に駅・住宅地近隣に立地する都市型SCとして開発したイオンモール新瑞橋(愛知県)、広域商圈を対象とするリージョナル型SCのイオンモール大和郡山(奈良県)、そして、6月には当社初



イオンモール新瑞橋 愛知県名古屋市 2010年3月9日 グランドオープン

「まいにちづかいの都市型」SC

名鉄本線などの3駅から400メートルの距離にあり、公共交通機関の利便性と、密度の高い住宅集積に恵まれた立地に都市型SCとしてオープン。約130の専門店を揃え、訪れるお客さまが楽しく快適な時間を過ごすことができる「“ちょっと上”の新しい価値」を提供する上質な「まいにちづかいの都市型」SCです。

敷地面積：約53,000㎡ 専門店数：約130店舗
店舗面積：約24,000㎡ 駐車台数：約1,600台

の大都市駅前立地となるイオンモールKYOTO(京都府)、(当報告書5頁をご覧ください)をオープンしました。今後も、多様な立地でお客さまのニーズにお応えしたSC開発を進めてまいります。



イオンモール大和郡山 奈良県大和郡山市 2010年3月25日 グランドオープン

歴史・文化の街にふさわしいリージョナル型SC

県内自動車交通の大動脈である国道24号に面し、京奈和自動車道や西名阪自動車道にも5kmと広域からのアクセスに恵まれた立地。SCの内外に「和」のテイストを取り入れ、歴史・文化の街にふさわしい「らしさ」を追求しました。約170の専門店がデイリーショッピングから都市型の生活トレンドを提案し、常に新しい情報のご提供まで幅広く対応しています。

敷地面積：約166,000㎡ 専門店数：約170店舗
商業施設面積：約74,000㎡ 駐車台数：約4,200台

当上期に6SCをリニューアル

当社では、中期経営計画に沿って6SCのリニューアルを行い、SCの活性化を図りました。

イオンモール太田(群馬県)は、ホームセンター撤退跡の区画をファッションを中心としたファミリー・キッズの専門店ゾーンへ刷新しました。また、イオンモール

広島府中ソレイユ(広島県)は、中小専門店との契約満了を機に新規35店舗、移転・改装40店舗を実施し、広島地区初の海外ファストファッションの「ZARA」と、日本初となるミスタードーナツとモスバーガーが一体化した新業態「MOSDO!」を導入しました。

退店した大型店跡区画のリニューアルに伴う活性化

イオンモール太田 群馬県太田市
2010年4月23日 リニューアル・オープン
専門店数170店舗(新規26店舗、移動・改装23店舗)



1階サウスモール入口



専門店との6年契約満了となるSCにおける活性化

イオンモール榎原アルル 奈良県榎原市
2010年3月12日 リニューアル・オープン
専門店数243店舗(新規24店舗、移動・改装51店舗)

イオンモール広島府中ソレイユ 広島県安芸郡
2010年4月23日 リニューアル・オープン
専門店数191店舗(新規35店舗、移動・改装40店舗)

イオンモール京都ハナ 京都府京都市
2010年6月18日 リニューアル・オープン
専門店数143店舗(新規32店舗、移動・改装58店舗)

新たなサービス機能の付加による活性化

イオンモール草津 滋賀県草津市
2010年4月28日 スポーツ&レジャー棟に温浴施設をオープン

イオンモール東浦 愛知県知多郡
2010年3月14日 当社初となる結婚式場を導入し、ブライダル関連の専門店およびカルチャー関連の教室を展開

下期の活性化SC

上期の6SCのリニューアルに続き、下期には、イオンモール寝屋川グリーンシティ(大阪府)とイオンモール

下期 増床・リニューアルSC

イオンモール寝屋川グリーンシティ 大阪府寝屋川市 2010年9月23日 リニューアル・オープン

1978年3月のオープン以来32年が経過し、このたびスクラップ&ビルド同様の大規模な活性化を実施。キッズ関連を充実させ地域 No.1のキッズゾーンを構築し、書籍・生活雑貨店も地域最大級に増床しました。フードコートも1.8倍にスケールアップ、専門店を従来の43店舗から64店舗へ拡充するとともに、新たにユニバーサルデザインを導入しました。旧来型のGMSを主としたSCが、地域特性に対応した「ショッピング」「エンターテインメント」「コミュニティ」「エコロジー」の4つの

機能をもつ、コンパクトな都市型SCとして生まれ変わりました。



改修前



改修後

新居浜(愛媛県)に加え、中小専門店との契約満了を機に行う4SCを含む6SCの活性化に注力します。

イオンモール新居浜 愛媛県新居浜市 2010年秋 リニューアル・オープン

2010年秋、SCの隣接地に増床棟を新設し、新たな業種・業態を導入することで、地域で圧倒的な規模となるワンストップソリューション型SCとして生まれ変わります。さらに2011年春には、全館リニューアル・オープンを予定しています。



その他4SCの活性化

イオンモール福岡ルクル 福岡県糟屋郡 2010年9月17日 リニューアル・オープン

イオンモール浜松志都呂 静岡県浜松市 2010年10月22日 リニューアル・オープン

他2SC

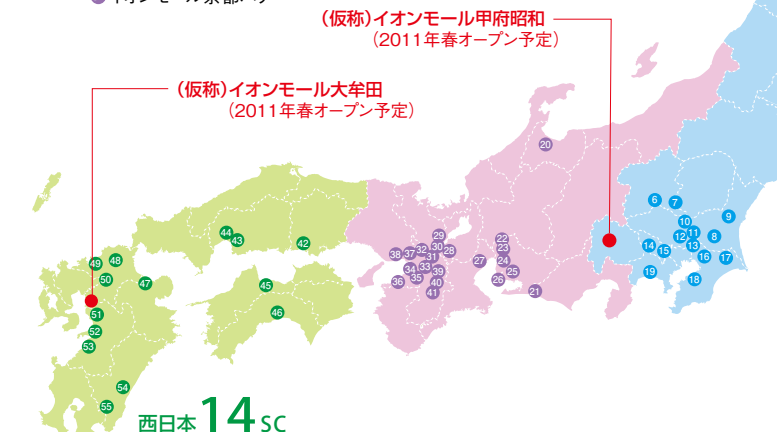
さらに成長を続け、国内55SC・中国2SCを展開 (2010年9月30日現在)

中部・近畿 22SC

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 富山県 20 イオンモール高岡 | 大阪府 39 イオンモール寝屋川グリーンシティ |
| 静岡県 21 イオンモール浜松志都呂 | 39 イオンモール鶴見リーファ |
| 愛知県 22 イオンモール木曽川キリオ | 39 イオンモール堺北花田プラウ |
| 23 mozo wondercity(モゾ ワンダーシティ) ※ | 39 イオンモール藤井寺 |
| 24 イオンモール岡崎 | 39 イオンモールりんくう泉南 |
| 25 イオンモール新瑞橋 | 兵庫県 37 イオンモール伊丹テラス |
| 26 イオンモール東浦 | 39 イオンモール神戸北 |
| 三重県 27 イオンモール鈴鹿ベルシティ | 奈良県 39 ならファミリー ※ |
| 滋賀県 28 イオンモール草津 | 40 イオンモール大和郡山 |
| 京都府 29 京都ファミリー ※ | 41 イオンモール橿原アルル |
| 30 イオンモールKYOTO ※ | |
| 31 イオンモール京都ハナ | |

(仮称)イオンモール甲府昭和
(2011年春オープン予定)

(仮称)イオンモール大牟田
(2011年春オープン予定)



西日本 14SC

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 岡山県 42 イオンモール倉敷 | 熊本県 51 大津ショッピングプラザ |
| 広島県 43 イオンモール広島府中ソレイユ | 52 イオンモール熊本クレア |
| 44 イオンモール広島祇園 | 53 イオンモール宇城バリュー |
| 愛媛県 45 イオンモール新居浜 | 宮崎県 54 イオンモール宮崎 |
| 高知県 46 イオンモール高知 | 55 イオンモールMiELL都城駅前 |
| 大分県 47 イオンモール三光 | |
| 福岡県 48 イオンモール直方 | |
| 49 イオンモール福岡ルクル | |
| 50 イオンモール筑紫野 | |

※印=PM(プロパティ・マネジメント物件)

関東・東北 19SC

- | |
|-----------------------|
| 青森県 1 イオンモールつがる柏 |
| 2 イオンモール下田 |
| 秋田県 3 イオンモール秋田 |
| 岩手県 4 イオンモール盛岡 |
| 宮城県 5 イオンモール名取エアリ |
| 群馬県 6 イオンモール高崎 |
| 7 イオンモール太田 |
| 茨城県 8 ヘルチ土浦 ※ |
| 9 イオンモール水戸内原 |
| 埼玉県 10 イオンモール羽生 |
| 11 イオンレイクタウンkaze |
| 12 イオンモール川口キャラ |
| 13 イオンモール川口グリーンシティ |
| 東京都 14 イオンモール日の出 |
| 15 イオンモールむさし村山ミュー |
| 千葉県 16 イオンモール千葉ニュータウン |
| 17 イオンモール成田 |
| 18 イオンモール富津 |
| 神奈川県 19 イオンモール大和 |

海外 2SC

- | |
|---------------------------|
| 北京市 1 イオン北京国際南城ショッピングセンター |
| 天津市 2 イオンモール天津TEDA |

中期経営計画 (2011年2月期～2013年2月期)

当社では、安定的に新規SCの出店を進めるとともに、既存SCは、活性化のスピードを速めて収益の拡大を図り、確固たる成長を実現します。また、新規収益源の確立に向けPM事業に取り組み、国内におけるSC事業の拠点拡大を図ります。さらに、中国を中心とした海外SC事業の発展により、企業価値を向上し、当中期経営計画の最終年度である2013年2月期には、営業収益1,650億円、経常利益450億円の達成に努めます。

具体的には、新規SCは、3年間で国内7、中国4の計11SCのオープンを計画。既存SCは、当期に実施する12SCを含め、3年間で全体の約6割に当たる31SCの増床・リニューアルを実施します。

イオンモールKYOTOをはじめとするPM受託物件は、投資コストが不要で、かつ売上増加に伴うインセンティブもあることから、新たな収益源として新規受託の拡大に取り組みます。

また、コスト構造改革を推し進め、さらなる経営の効率化を図ります。SCの運営面では、合併に伴うシナジー効果が功を奏し、計画を上回るコスト削減を実現しています。中期経営計画においては、さらに一層の経営効率化に取り組み、確実に利益を確保してまいります。

〈施策〉

- 国内 新規7SCオープン
- 既存31SCの活性化
- PM受託物件の拡大
- 中国 新規4SCオープン

2013年2月期数値目標

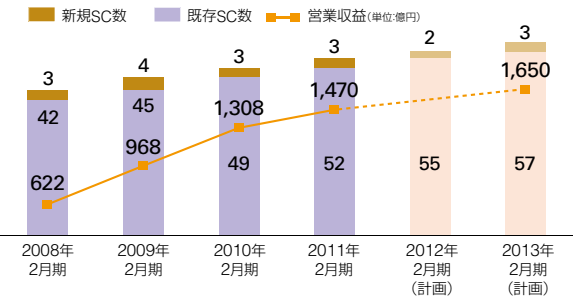
営業収益
1,650億円
(年率5.9%成長)

経常利益
450億円
(年率7.5%成長)

店舗計画

	2011年 2月期	2012年 2月期	2013年 2月期	合 計
国内新規SC (PM物件を除く)	2SC	2SC	3SC	7SC
既存SC活性化	12SC	11SC	8SC	31SC
中国新規SC	1SC	—	3SC	4SC

国内SC数と営業収益の推移



新規SC

(仮称)イオンモール甲府昭和 山梨県甲府市

2011年春 オープン予定

山梨県へ初出店

甲府市内へつながる昭和バイパスに隣接し、今後も道路整備が進められ、車でのアクセスが良好な立地にあります。約12万5千㎡の敷地に物販専門店・飲食店・サービスなど多種多様な専門店約100店舗(予定)を配置した「モール型SC」です。



(仮称)イオンモール大牟田 福岡県大牟田市

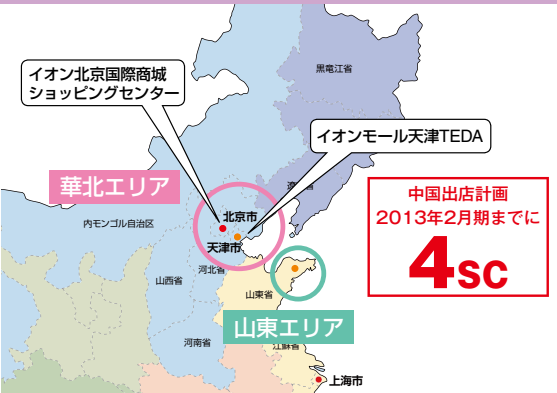
2011年春 オープン予定

筑後地域初の2核1モール型SC

有明海沿岸道路の起点「大牟田IC」に近接し、JR・西鉄「大牟田駅」からも約1.5kmと、広域からのアクセスに恵まれた立地にあります。約22万9千㎡の敷地にバラエティに富んだ専門店を揃え、常に新鮮な情報を発信する「ワンストップソリューション」施設を目指しています。



中国事業



中国では、急速にモータリゼーションが進展しており、今後郊外型SCの成長が見込まれます。当期は天津で1SCをオープンさせ、経済発展が見込める華北・山東エリアを中心に、2013年2月期には3SCをオープンし、以降、年間2～3SCのオープンを目指としています。

このように着実な新規SCのオープンを進めることで、これまでに蓄積したノウハウを最大限に活用し、中国における事業展開の礎を築いてまいります。



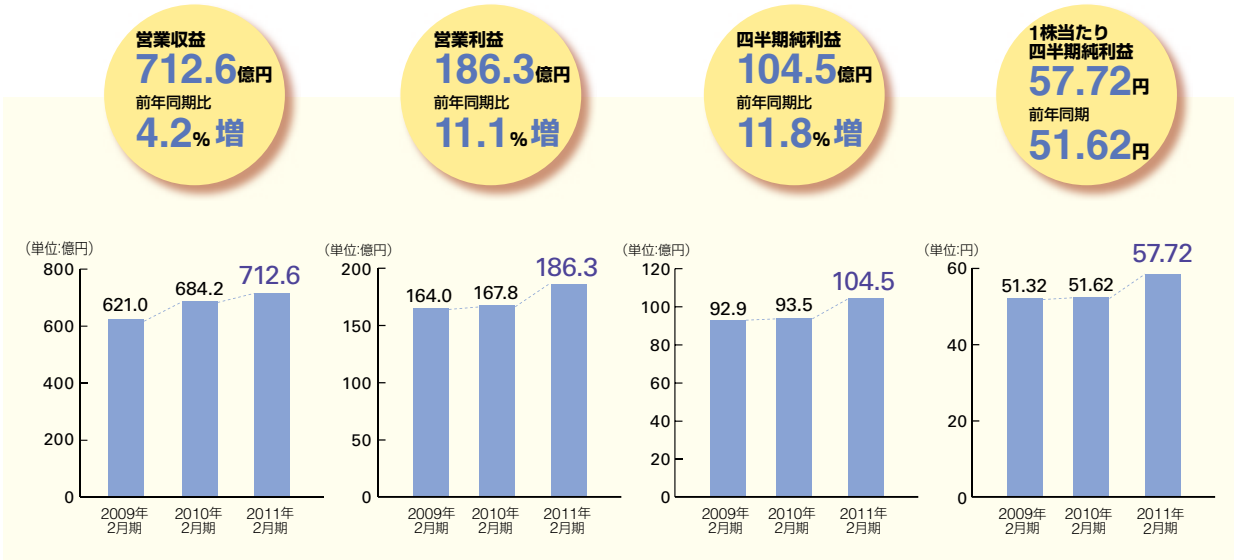
経営成績

当第2四半期連結累計期間(2010年2月21日～8月20日)(以下、当上期)の営業収益は712億61百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

事業規模拡大の一方、既存SCを中心としたコスト構造改革をさらに推し進めたことにより、営業原価は472億23百万円となり、販売費及び一般管理費は事業規模が拡大したものの前期並みに抑えた結果53億99百万円となり、営業利益は186億38百万円(同11.1%増)となりました。経常利益は、営業外収益が9億47百万円(同27.1%減)、営業外費用が16億7百万円(同6.8%減)となった結果、179億78百万円(同9.9%増)となりました。特別損益項目では、特別利益として1千万円(前第2四半期連結累計期間は百貨店退店に伴う受取退店違約金など11億31百万円)を計上し、特別損失として固定資産除却損2億51百万円(前第2四半期連結累計期間は固定資産除却損など11億93百万円)を計上しました。

以上の結果、当上期の純利益は104億55百万円(同11.8%増)となりました。

連結損益計算書	(単位:百万円)	
	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
	自 2009年2月21日 至 2009年8月20日	自 2010年2月21日 至 2010年8月20日
営業収益	68,420	71,261
営業原価	46,237	47,223
営業総利益	22,183	24,037
販売費及び一般管理費	5,400	5,399
営業利益	16,782	18,638
営業外収益	1,300	947
営業外費用	1,725	1,607
経常利益	16,357	17,978
特別利益	1,131	10
特別損失	1,193	251
税金等調整前四半期純利益	16,296	17,737
法人税、住民税及び事業税	6,406	7,297
法人税等調整額	500	△52
法人税等合計	6,907	7,244
少数株主利益	38	37
四半期純利益	9,350	10,455



連結貸借対照表	(単位:百万円)	
	前 期	当第2四半期
	2010年2月20日 現在	2010年8月20日 現在
資産の部		
流動資産	54,374	25,243
固定資産	449,172	489,124
有形固定資産	365,612	401,052
無形固定資産	2,243	2,330
投資その他の資産	81,316	85,742
資産合計	503,546	514,368
負債の部		
流動負債	100,730	107,991
固定負債	244,000	238,874
負債合計	344,730	346,865
純資産の部		
株式資本	158,039	166,691
資本金	16,666	16,670
資本剰余金	16,975	16,979
利益剰余金	124,420	133,065
自己株式	△23	△24
評価・換算差額等	162	133
新株予約権	83	116
少数株主持分	530	561
純資産合計	158,816	167,502
負債・純資産合計	503,546	514,368

連結キャッシュ・フロー	(単位:百万円)	
	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
	自 2009年2月21日 至 2009年8月20日	自 2010年2月21日 至 2010年8月20日
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,416	10,437
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,779	△35,905
財務活動によるキャッシュ・フロー	43,146	△6,998
現金及び現金同等物に係る換算差額	25	△10
現金及び現金同等物の増減額	29,808	△32,477
現金及び現金同等物の期首残高	4,092	37,898
現金及び現金同等物の四半期末残高	33,901	5,421

財政状態(資産、負債および純資産の状況)

資産の部

当上期に新規開店したSCの資産取得に加え、将来の開発物件および増床用地を先行取得したことにより固定資産が増加し、総資産は5,143億68百万円(前期末比108億21百万円増)となりました。

負債の部

長期借入金の純減による固定負債の減少がありましたが、当上期に新規開店したSCの支払手形の増加などにより、負債合計は3,468億65百万円(同21億34百万円増)となりました。

純資産の部

純資産は、当上期に純利益を計上したことにより1,675億2百万円(同86億86百万円増)となり、自己資本比率は、32.4%(同1.0ポイント増)となりました。

財政状態(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フロー

専門店売上預り金返還のすれ(前期末2010年2月20日の返還日が銀行休業日)および、消費税納付の影響を除けば、前第2四半期累計期間を上回る営業キャッシュ・フローを創出。

・専門店売上預り金のすれ 前年同期間に△155億75百万円

・消費税納付の影響 前年同期間に△79億23百万円

投資活動によるキャッシュ・フロー

新規SCの開店投資と将来の開発物件および増床用地の先行取得により投資活動の結果減少した資金は、359億5百万円(前第2四半期累計期間467億79百万円)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

フリー・キャッシュ・フローは△254億67百万円でしたが、手元余剰金の圧縮により、財務キャッシュ・フローは、△69億98百万円(有利子負債比△51億80百万円)となりました。

以上の結果、当上期末の現金および現金同等物の残高は、54億21百万円(前期末比324億77百万円減少)となりました。

株主優待のお知らせ

対象株主さま

毎年2月20日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主さまについて、実施しています。

実施対象は、1単元(100株)以上の株式を保有されている株主さまです。

〈優待制度〉

- 100株～500株未満 3,000円相当のご優待商品
- 500株～1,000株未満 5,000円相当のご優待商品
- 1,000株以上 10,000円相当のご優待商品

詳細については、2010年6月下旬に送付しました優待品選択に関するご案内をご覧ください。

株式の状況 (2010年8月20日現在)

発行可能株式総数 320,000,000株
発行済株式の総数 181,134,407株
株主数 8,053名

大株主(上位10名) (2010年8月20日現在)

当社への出資状況		
	持株数(千株)	出資比率(%)
イオン株式会社	101,057	55.79
メロンバンク エヌエー アズエーエージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	3,091	1.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,089	1.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,599	1.43
サジャツブ	2,251	1.24
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカUNT	2,166	1.19
バンク オブ ニューヨーク タックス トリイティ ジヤスデツク オムニバス ツー	1,842	1.01
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	1,721	0.95
東京海上日動火災保険株式会社	1,683	0.92
ザ バンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジヤスデツク アカUNT	1,519	0.83

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てています。 2. 株主比率は、自己株式(8,770株)を控除して計算し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

●ご優待商品

3つのコースからひとつを選択していただけます。

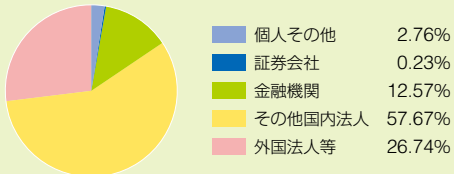
- ①「イオンギフトカード」
- ②「カタログギフト」
- ③「カーボンオフセットサービス」※

※このサービスを選択されますと、相当額の二酸化炭素排出権を一般社団法人「日本カーボンオフセット」(<http://www.co-j.jp/home/>)を通じて取得し、日本の償却口座に無償で移転することで、日本の京都議定書の目標達成に貢献します。

〈ご報告〉2010年2月期の実績では、19名の方よりご選択いただき、20トン分の二酸化炭素排出権を取得いたしました。



所有者別株式分布状況 (2010年8月20日現在)



会社概要 (2010年8月20日現在)

社名	イオンモール株式会社
英文社名	AEON MALL CO., LTD.
設立	1911(明治44)年11月
資本金	166億7千万円
本社所在地	千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目5番地1
従業員数	677名

取締役・監査役 (2010年9月20日現在)

取締役会長	豊島 正明	取締役	岩本 博
代表取締役社長	村上 教行	取締役	村井 正人
専務取締役	山中 千敏	取締役	河原 健次
専務取締役	平林 秀博	取締役	藤原 雄三
常務取締役	小西 幸夫	常勤監査役	横井 賢*
常務取締役	岩本 馨	監査役	林 有恒*
取締役相談役	岡田 元也	監査役	岡崎 隆夫
取締役	高橋 富士夫	監査役	千葉 清一*
取締役	相馬 勝		* 社外監査役

ホームページのご紹介

投資家の皆さまへの情報はホームページでもご覧になれます。
<http://www.aeonmall.com>から、「投資家の皆さまへ」をクリックしてください。



イオンモールはホームページでさまざまな情報を発信しています。



株主さま、投資家の皆さまへのコミットメントを含む、社長からのご挨拶を掲載しています。

株主メモ

事業年度	2月21日から翌年の2月20日まで
基準日	2月20日(その他必要がある場合には、あらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月(ただし20日までに開催)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
お問い合わせ先	イオンモール株式会社 管理本部 総務部 〒261-8539 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1 電話 043-212-6463 ホームページ http://www.aeonmall.com
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることが出来ない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載	http://www.aeonmall.com

- 未払配当金のお支払い、支払明細の発行
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。
- 住所変更、単元未満株式の買増・買取請求、口座振替、配当金受取方法の指定等
【証券会社に口座をお持ちの株主さま】
お取引の証券会社にお問い合わせください。
【特別口座の株主さま(証券会社に口座をお持ちでない株主さま)】
みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。
- お問い合わせ先
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)

Our Vision

私たちの理念・ビジョン・事業

基本理念

お客さま第一

- 1** 企画・開発・建設・リーシング・運営
までの一貫したモールビジネス
においての顧客は「地域のお客
さま」です。
- 2** テナントスタッフを始め、清掃・警備
やメンテナンスなどモール(SC)に
かかわるすべてのパートナーとと
もに、「お客さま第一」の価値観を
共有することが当社とパートナ
ーの発展につながります。
- 3** お客さまの期待に応え、更なる期
待を得、またそれに応えるという
価値の連鎖により、永続的な発展
があります。

経営理念

イオンモールは、「輝きのあるまちづくり」を目指します。

私たちは、パートナーとともに、輝きのあるまちを創造し、地域で生活する
人々の、より彩りあるくらしの実現に貢献し続けます。

「輝きのあるまち」とは

私たちが創る「驚き、感動、喜び」のある生活拠点に
よって魅力溢れる新しい生活があるまちのことを指
します。

「パートナー」とは

地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地
権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべての人
を指します。

コーポレートメッセージ



ひとも、まちも、きらきら。



木を植えています

私たちはイオンです



このリーフレットは環境対応大豆
油使用インキを使用しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用